

社会福祉法人若葉会 令和2年度事業報告書

社会福祉法人若葉会 基本的な考え方

私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにはかたがた担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。

1. 法人の概要

(1) 施設並びに事業

保育所型認定こども園 わかば保育園

病後児保育事業：子育て支援拠点事業

小規模保育所 わかば保育園

塩沢金城わかば児童館

放課後児童クラブ 金城クラブ

放課後児童クラブ わかばクラブ

放課後児童クラブ 牧之クラブ

塩沢デイサービスセンター ゆきつばき

総合施設 ゆきつばき

居宅介護支援事業所 ゆきつばき

雲洞グループホーム つばき園：併設：認知症対応型デイサービスセンター

(2) 役員

別紙（法人役員名簿参照）

(3) 職員数 96名（常勤47名、非常勤・パート42名、金城学園兼務者7名）

(4) その他

姉妹法人 学校法人 金城学園

2. 事業の概要

(1) 各施設管理者の育成

(2) 各施設の事業計画に基づく事業の遂行

(3) 職員研修並びに育成

3. 財務の概要

(1) 令和2年度計算書類参照

資金収支計算書：事業活動計算書：貸借対照表：財産目録

4. 本年度の主な施設整備

(1) わかば保育園隣地購入

(2) ゆきつばき(裏水路)用地購入

5. 監査報告

(1) 監事による監査報告

以上

社会福祉法人 若葉会 理事・監事名簿

任期 令和3年6月28日から

就任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結まで

令和3年6月28日

役職	氏名	職業・役職名・職歴
理事長	角谷 正雄	幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園園長 南魚沼市教育委員
理事	角谷 教恵	幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園 保育園長 塩沢金城わかば児童館館長
理事	大平 梨花	保育所型認定こども園 わかば保育園長
理事	岩田 拓	塩沢デｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰゆきつばき 施設長
理事	南雲 武仁	雲洞デｲｰﾋﾞｾﾝﾀｰつばき園 施設長
理事	岡田 稔	東京福祉大学 教授 元 宮城県介護福祉士会長
監事	桐生 厚義	桐生司法書士事務所長 (福)雪国ボランティア苦情第三者委員
監事	阿部 淳	(株)雪国リゾートインフォメーション代表取締役 (株)喜太郎商店代表取締役
監事	八木 三男治	元 小学校長 元 主任児童委員

社会福祉法人 若葉会 評議員名簿

任期：平成 29 年 4 月 1 日から

就任後 5 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結まで

平成 29 年 4 月 1 日

役職	氏名	職業・役職名・職歴
評議員	高野 信義	金沢屋酒店会長 元 塩沢町議会議員 元 南魚沼福祉会理事
評議員	須藤 利春	ｽｯｯｸｽｯｸ店会長 元 塩沢町商工会理事
評議員	小林 英樹	小林整骨院院長
評議員	桑原 博	桑原織物社長 主任児童委員 塩沢地区青少年健全育成会会長
評議員	洲崎 裕子	元つむぎの里役員 塩沢地域育成会役員 元 金城幼稚園 PTA 副会長
評議員	山田 浩史	社会福祉法人 清栄会 群馬県社会福祉協議会評議員 前橋市社会福祉協議会理事
評議員	高野 武彦	南魚沼市社会福祉協議会会長
評議員	貝瀬 幹夫	南魚沼市民生委員・児童委員

令和2年度 社会福祉法人若葉会 年間事業報告

項 目	内 容	テ ー マ
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります	
目 標	職員「着実な歩み(キャリアパス)」	「自分の仕事に誇りを持つ」正確性
	環境「地域ニーズを先取りした環境をつくろう」	「同僚との絆を深める」信頼
年度基本方針	1 自己点検・自己評価による各施設職員の資質向上による「正確性と信頼そして誇りと絆」育成とキャリアパスの実践	・具体的な方策を考え実行 ・自分達の良いところ再発見
	2 職員の確保と子育て支援事業の充実、病後児保育の確立	わかば
	3 小規模保育の着実な運営	小規模わかば
	4 金城とタイアップした子育て支援事業の充実と子ども食堂運営	児童館
	5 3クラブの安定した運営	放課後児童クラブ
	6 地域から頼りにされるデイサービス運営	ゆきつばき
	7 地域から頼りにされる居宅と新人職員の育成	居宅ゆきつばき
	8 利用者のための付加価値の追求と地域ニーズの再確認	総合事業ゆきつばき
	9 柔軟な職員配置:GH2ユニットの運用と共用デイの充実	つばき園
	10 厨房の効率化と楽しい食事の在り方検討	調理部門
	11 本部事務局の充実(事務職の専門性と効率化)	事務局
	内 容	結 果
年間事業報告	4月 新入職員歓迎会	(中止)
	5月 音楽コンサート(11月へ延期)	金城・わかば・児童館(会場:金城)
	6月 合同職員採用試験(中止)	(中止)
	7月 自己点検・自己評価 合同職員採用試験(中止)	実施 (中止)
	8月 合同職員研修旅行(中止) 合同職員採用試験(中止)	(中止) (中止)
	9月	
	10月 運動会 合同職員採用試験(中止)	金城・わかば (中止)
	11月 わかば保育園隣地購入契約 合同職員採用試験	実施 実施
	12月 自己点検・自己評価 合同忘年会(中止)	実施 (中止)
	1月 ゆきつばき(裏用水路)用地購入	実施
	2月 金城学園・若葉会合同職員研修	ゆきつばき+金城(会場:わかば)
	3月 歓送別会(中止)	(中止)
その他計画	中期事業計画(R3から3年)立案	別紙:中期事業計画の通り
	施設間連携	新型コロナウイルス感染症により積極的な交流は控えた
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のためほとんどの事業が中止を余儀なくされた。各施設とも新型コロナウイルス感染症をしっかりと行ってくれたため、新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザやノロウイルス等の感染症も防ぐことができた ・ゆきつばきDS、つばき園DSでは新型コロナウイルス感染症対策のため利用者減となった 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度も新型コロナウイルス感染症対策は継続せざるを得ないので今年度の対策を踏まえより効果的な対策を行う ・中期事業計画を確実に遂行する 	

令和2年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名(保育所型認定こども園わかば保育園)

		内 容	具体的方策	
基本的な考え方		<p>私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちが挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります</p> <p>「同僚との絆を深める」信頼 「自分の仕事に誇りを持つ」正確性</p>	<p>利用する人たちの信頼や期待に応えられる職員間の質の向上に努める。同僚間では、課題に対しての成果に気づきあいつながら、互いに高め合い絆を深める</p>	
理念		<p>・家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意する</p> <p>・乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る</p>		
		内容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1	保育理念・保育目標につなげた保育の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の保持（健康管理や事故に対する予防）を行いながら健全な心身の発達を促されるような、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境を整え、保護者への保育説明へつなげる（保育参観の充実） ・心身共に明るく、思いやりや気配りができ、自ら考えて行動が出来るように保育者がお手本となり、保育に携わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染予防は感染予防のガイドラインに沿って行った。 ・県や市のコロナウイルス感染の新しい情報を受けて、いち早く情報の提供に努めた。 ・参観型の保育ができなかったため、保育説明をおたよりや玄関対応でこまかに配慮するよう努めた。 ・職員自ら手洗い・消毒・マスク着用・外出の自粛を実践し、家庭の手本として心がけてくれた。
	2	保育計画・見直し・記録の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に活かせる指導案の作成と活用しやすい記録の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・月案や個人記録など配慮に必要な記録の量に心掛け、無駄にならない記録の仕方に心がけるよう改善した
	3	人材育成の為に研修計画の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に活かせる研修を立案し、継続して実施することで保育者自身の自己肯定感を高める ・キャリアアップの為に職員間同士の話し合いを定期的に行い、自らの課題や成果に気づく力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事で取り組むダンス表現や、小学校に繋げる英語力や困り感のある子の見取り方などに力を入れ研修を継続して行い、子どもの前で自信を持って指導出来るようになった。
	4	働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・定められた時間内に効率よく出来る仕事方法や環境を、職員同士で考え意識し実施 ・役割分担の見直し（非常勤職員の携わり方） 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記人材育成の研修の時間確保やコロナ対応の仕事量の増加となり勤務時間内の事務時間が難しいと感じる職員が増えた。 ・非常勤職員やパート職員への仕事の分担など検討し実施する必要性を感じた。
	5	虐待の予防と早期発見 困り感のある家庭へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待予防につながる家庭支援の在り方や、困り感のある家庭（愛着障がい）を研修等で学ぶ機会を持ち職員全体で知識を高める ・日々の保育生活のなかで、職員が子どもの姿や家庭の状況などから虐待の疑いを見抜く力を備え、報告・相談・連絡など行う体制を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部者とのつながりや報告や相談を行い、記録にとるのは定着。 ・虐待に対する研修を取り入れ気づく力が身についた職員が増えた。
目標と実績		数値目標	実績	
		年間平均在所率	R元年度84/95人 85% R2年度82/90人 91%	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児途中入園の対応は積極的に行えたが100パーセントにはならなかった
		地域子育て支援拠点事業 目標 200人	R元年度231人 相談件数20件 R2年度95人 相談件数25件	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染防止のため積極的に取り入れ出来なかった。 ・しかし、電話相談や入園説明会での相談が多くなった。
		病後児保育事業 目標 10人	R元年度 0人 R2年度 0人	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染防止のため積極的に取り入れ出来なかった
		一時預かり事業 目標80人	R元年度 83人 R2年度 0人	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染防止のため積極的に取り入れ出来なかった
事故報告	事件数	内容		対策
	2件	5歳児男児 左手中指骨折 飛び箱中、他児に押され体をカバーしようと手をついたため 5歳児男児 上唇小帯切り傷 他児との衝突	飛び箱中の立入禁止ゾーンを園児に周知し、他児が飛んでいる際に押しはいけないことを指導 部屋からホールに出る際に一時停止をするように、幼児組全員に指導	
申苦立情	0件	なし		

令和2年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 (小規模保育所わかば保育園)

		内 容	具体的方策
基本的な考え方		私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちがだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります 「自分の仕事に誇りを持つ」正確性 「同僚との絆を深める」信頼	地域のニーズに応え、0, 1歳児の待機児童に応え受け入れの枠をひろげ、安心・安全な保育を展開する 利用者に信頼されている誇りを持ち、責任ある仕事ができる職員を増やす
理念		家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意する 乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る	
		内容	具体的方策 評価・反省
年度基本方針	1	保育理念・保育目標につなげた保育の取り組み	・生命の保持（健康管理や事故に対する予防）を行いながら健全な心身の発達を促されるような、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境を整え、保護者への保育説明へつなげる（総合事業との連携行事） ・心身に明るく、思いやりや心配りができ、自ら考えて行動が出来るように保育者がお手本となり、保育に携わる
	2	保育計画・見直し・記録の充実	・保育に活かせる指導案の作成と活用しやすい記録の充実 ・月案や個人記録など配慮に必要な記録の量に心掛け、無駄にならない記録の仕方に心がけるよう改善した
	3	人材育成の為に研修計画の充実	・保育に活かせる研修を立案し、継続して実施することで保育者自身の自己肯定感を高める ・キャリアアップの為に職員間同士の話し合いを定期的に行い、自らの課題や成果に気づく力を養う
	4	働きやすい職場環境づくり	・定められた時間内に効率よく出来る仕事方法や環境を、職員同士で考え意識し実施 ・役割分担の見直し（非常勤職員の携わり方） ・上記人材育成の研修の時間確保やコロナ対応の仕事量の増加となり勤務時間内の事務時間が難しいと感じる職員が増えた。 ・非常勤職員やパート職員への仕事の分担など検討し実施する必要性を感じた。
	5	虐待の予防と早期発見 困り感のある家庭へのアプローチ	・虐待予防につながる家庭支援の在り方や、困り感のある家庭（愛着障がい）を研修等で学ぶ機会を持ち職員全体で知識を高める。 ・日々の保育生活のなかで、職員が子どもの姿や家庭の状況などから虐待の疑いを見抜く力を備え、報告・相談・連絡など行う体制を整える。 ・外部者とのつながりや報告や相談を行い、記録にとるのは定着。虐待に対する研修を取り入れ気づく力が身についた職員が増えた。
目標	年間平均在所率 定員15名	定員に対して100%の園児となる	こども園0歳児の入園等とバランスを考え入園を計画
事故報告	事故件数	内 容	
	2件	1歳児男児 外遊びの際アスファルト上で転倒し後頭部を打つ 1歳児女児 ジャンプ着地で転倒し上唇小帯負傷	アスファルト上にマットなどを敷く 子どもの動きに反した片付けをしない
申苦立情	0件		

令和2年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 (塩沢金城わかば子育て支援センター・わかばクラブ・金城クラブ・牧之クラブ・塩沢金城わかば児童館)

項目	内 容		具体的方策
基本的な考え方	<p>私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります</p>		<p>児童館の事業目的・運営・方針を基本とし、児童館の仕事に誇りを持って子育て支援事業・放課後児童クラブの運営を行い、新規事業である子ども食堂の開設を目指す</p>
理 念	<p>児童館活動および子育て支援拠点事業を通して、家庭や地域社会及び姉妹園関連施設と連携を図り、子どもたちに健全な遊びを与え、健康増進と情操の涵養を図る</p>		
	<p>一人ひとりの児童がこれからの長い人生を生きる勇気・知恵・やさしさを持てるよう、放課後児童クラブにおいて直接的な体験をさせる。</p> <p>地域のニーズを探り、児童館と地域とのつながりを生かして子ども食堂を開催し、地域に住む方々の子育てを支援する。</p>		
項目	内 容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1 “児童館”としての事業目的・運営・方針の理解	・教職員間の共通理解および協力体制を確認しつつ、月一回日曜日に児童館行事を開催する	・年度前半の日曜行事はコロナ禍により中止せざるを得なかったが、年度後半は参加者数を絞り、感染予防対策のために内容を大幅に変更して開催した。
		・地域の子育て支援事業利用者のニーズに応えられる魅力ある施設となるように、館内環境設定を整え、維持する	・感染予防対策のため、ガイドラインを参考に換気や消毒を実施し、利用人数を制限して、検温や健康チェックを行い参加者を受け入れた。
		・学童期の児童にふさわしい保育環境を整え、安定した生活を送れるようにする	・コロナ禍による小学校の臨時休校期間中も放課後児童クラブは開設し、子どもたちの安定した生活を保証するよう努めた。 ・熱中症予防対策のため、遊戯室2にエアコンを設置した。
		・小学生と乳幼児の触れ合いの機会を広げ、お互いに理解を深めることができるようにする	・コロナ禍により小学生と乳幼児の触れ合いは実施できなかった。
	2 職員の資質や能力・良識の向上	・子育て支援事業担当者および放課後児童クラブ指導員・指導員補助の役割分担を明確にし、円滑な連絡協力体制を確立する	・子育て支援事業担当者と放課後児童クラブ担当者として分担した業務内容を、月一度全体会議で共有することが定着してきた。
		・ママズカフェを月一回開催するなど情報収集に努め、地域の利用者のニーズに合った魅力ある子育て支援事業を実施する	・利用者の意見を直接聞いて講座内容に反映することは定着している。講座名称がわかりにくいという意見をいただいたので、次年度は「ママズミーティング」と名称を変更する。
		・放課後児童クラブ運営指針に基づく、質の高い学童保育を提供する	・コロナ禍により様々な制限をせざるを得ない中でも、自己点検・自己評価による振り返りの機会を持つことで、従来通りの学童保育を実施することができた。 ・3月には学童フェスティバルの様子を保護者に向けて動画配信し、学童保育の内容をご理解いただけようにした。
	3 地域の自然や社会との関わりを深める	・地域や自治体・企業などと協力しながら、次の世代を担う子どもたちの健全な成長を助けるために子ども食堂を開催する	・感染予防対策のため、参加人数を制限し内容を簡略化した。社協さんより食材(古米)を提供いただき子ども食堂を2回開催できた。
		・姉妹園・学童のみでなく、地域の小学校・保育所にも情報発信し、行事参加を促す	・コロナ禍により地域の小学校・保育所まで情報発信することはできなかった。
		・地域の公共施設及び関係者(子育てネットワーク会議等)・小学校との連携を図り、地域に密着した支援を行っていく	・参加者を絞りつつも子育てネットワーク会議を開催し、地域の公共施設及び関係者と共に、コロナ禍における地域に密着した支援のあり方を検討した。
	4 環境教育の活用、定着	・放課後児童クラブの保育に畑を活用し、自然体験・エコ活動につなげる	・クラブごとに畑を区分したので通常の保育の中で活用しやすかった。
		・水光熱費、ごみなどの無駄をなくし、現在ある設備を有効活用することで経費削減を目指す	・常時換気をしているため冷暖房効率はかなり悪く、経費削減はできなかった。
目標	<p>・コロナウイルス感染予防対策をしながら月一回日曜日に児童館行事を開催する。</p> <p>・学童フェスティバルを年度末に開催し、保護者や地域の方々に放課後児童クラブの内容を知っていただくためにリモートで配信する。</p>		
	件数	内 容	対策
事故	1	ドッチボール中につまづき転倒し、左足じん帯を損傷した	ドッチボール中の見守りを丁寧に行うこととした
苦情	1	コロナ禍による小学校臨時休校期間の放課後児童クラブ受け入れ時間についての説明が不十分である。	小学校の臨時休校により急遽終日の受け入れを求められ、限られた職員体制で放課後児童クラブの運営を維持するために、受け入れ人数の抑制や受け入れ時間の短縮を、可能な範囲で保護者に依頼した旨を再度ご説明した。

令和2年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告
施設名(塩沢デイサービスセンターゆきつばき)

項 目		内 容	具体的方策		
基本的な考え方		私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにはかたがたに出来ないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。	地域から頼りにされるデイサービス運営と土地購入並びに有効利用		
理 念		私たちは、ご利用者の皆様がゆきつばきでの生活を思う存分楽しんで頂けることを願っています。			
項 目		内 容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	利用者一人ひとりが心身ともに健康で望む暮らしを続けられるような支援を行っていく。	日常生活を営むにあたり必要な機能の維持や向上を図り、ご本人のできること、やりたいことを実現する。	入所待ちだった利用者が入所されたり、介護者であるご家族が家庭での介護に限界を感じ、群馬の施設や小規模多機能型のサービスへの転換がみられた。そんななか、サービス転換後にゆきつばきの方が良かったという声も聞かれ、一定の評価は得ていると考える。	
			集団レクリエーションだけでなく、利用者ができる『仕事・作業』にももっと目を向け、利用者が自らの能力に気づき、前向きになれるような支援にも力を入れていく。	毎月、季節に合わせた手工芸を実施し、作品を自宅に飾って下さっているご家庭が多くみられた。また、例年通り姉妹施設の幼稚園保育園の卒園生へのブローチの制作を行った。	
			理学療法士の復帰により、個別機能訓練加算の算定を再開する。	理学療法士の復帰に伴い、リハビリを必要としているご利用者に対し、個別機能訓練の加算の算定を行っている。	
			新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染予防対策に取り組む。	3密を避け、県からの補助金でパーティションや空気清浄機を設置し、自動水栓に変えるなどの対策を行った。また随時清掃・消毒を実施している。また、感染症の流行状況に応じてお便りなどで注意喚起を行っている。	
	2	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園との交流や地域のボランティアの受入れはもちろん、ゆきつばきの日頃の様子を広報紙やブログなどで地域に発信することに力を入れ、地域からの信頼を得るとともに、ゆきつばきの需要を高める。	法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携し、より充実したものにする。	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、思うように交流を行えなかったが、ウイルスの感染リスクを踏まえ、感染対策を行ったうえで幼稚園・保育園交流を再開した。	
			ボランティアの受入れなど、地域住民皆様から足を運んで頂き、地域に開かれた施設として信頼を得ていく。	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ボランティアなど地域との交流が途絶えている。コロナ禍において何が出来るのかを改めて考えていく必要がある。	
			ゆきつばきの特色が分かるよう、行事や日頃取り組んでいることなどを地域に発信（毎月ゆきつばき便りやブログの更新）していく。	チラシやお便り、法人の広報誌などで地域に発信している。	
	3	「虐待防止の強化」	身体拘束、虐待、不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、それらの発生防止、予防に取り組む。	虐待が疑われるケースについては、ケアマネなど関係者と連携を図っている。また冬季法人研修で改めて虐待、不適切ケアについて学習。職員のストレスを軽減するなど日々予防に努めている。	
	目標と成果		数値目標	実 績	来年度に向けての方策
			620/月（年間：7,400）	534.3/月（年間：6,412）	新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり大幅に実績が落ち込んでいる。年度末より徐々に利用実績は回復している。
	件数	内 容		対 策	
事故報告	0件	なし。		大きな事故や苦情もなく安定した運営が出来ている。	
苦情申立	0件	なし。			

令和2年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告
施設名(総合施設ゆきつばき)

理 念	私たちは、ご利用者の皆様が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう、心と身体の健康を支えます。			
項 目	内 容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	機能訓練だけに特化せず、ご利用者のための付加価値を追求する。	ご利用者の感情や思いを受け止め、支援者として希望を叶えられるサービスを提供する。	ご利用者の希望を伺いながら、プログラムの充実を図っていきなかったが新型コロナウイルス感染症の流行に伴い料理教室や踊り、歌など希望通りのサービスを提供することは困難だったが、意欲の向上につながるメニューの立案を行っている。
			ご利用者の声を大切に、身体機能の向上を図り、生きがい・遣りがいを持てるサービスを提供する。	お一人お一人ご利用者の意向の確認が出来るよう毎月聴き取りを実施し、プログラムに組み込んできた。体力測定、基本チェックリストの結果は向上が認められる。
			新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染予防対策に取り組む。	3密を避け、パーティションを設置し、サービス提供後はしっかりと清掃・消毒を実施している。また、感染症の流行状況に応じてお便りなどで注意喚起を行っている。
	2	小規模わかばやゆきつばき等、法人内の他事業所と連携を図りながら、円滑に送迎や料理教室等のサービスを提供していく。	送迎人員や配車など、送迎に必要な情報を共有するため、しっかりと報告・連絡・相談を行なっていく。	新規のご利用者が増えた場合や、お休みの方がいた場合はその都度報告をし、連携を図る事ができた。
			手工芸や料理教室、畑作業の計画をしっかりと行い、準備に要する時間や物品などを共有し、連携を図っていく。	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い料理教室が行えないなど制約ができたが、手工芸を中心に指先を動かすメニューを中心に実施し、喜ばれている。
	3	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園と連携しながら、総合施設ゆきつばきの需要を高める。	地域のニーズや制度の変化などの情報の把握に努め、地域に開かれた施設として、地域の福祉の充実に貢献する。	お便りによる情報の発信、市の口腔健康教室や見学者の受け入れも積極的に行った。今後もより地域に開かれた施設としてニーズの把握に努めていく。
			法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携し、より充実したものにする。	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、最小限の交流をに留めていた。
	4	虐待防止の強化	身体拘束、虐待、不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、それらの発生防止、予防に取り組む。	虐待等の発生事例はなが、引き続き予防、早期発見、対応ができるよう努めていく。
	目標と成果	数値目標	実 績	来年度に向けての方策
		利用実績： 660（月平均55）以上	【R2年度】 平均57.7/月（年間：693）	昨年度と年間利用者数は大きく変化はなかった。引き続きコロナ禍においても安心してご利用いただけるよう努める。
		件数	内容	対策
	事故報告	0件	なし。	
苦情申立	0件	なし。		

令和2年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 居宅介護支援事業所 ゆきつばき

基本的な考え方	私達は地域の児童・高齢者の皆様により良い生活の実現を目指し、時代に流れの先にある私達にしか担えないこと、私達だから挑戦しなければならないことを適時、的確に捉え自立した地域社会の一員としての自覚と幼児教育、福祉サービスの先駆者としての誇りをもち果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		
理念	住み慣れた地域で利用者が自分らしく生活できるように支援します。		
具体的方策	・これまで築いた事業所の信頼関係を土台とし、専門職としての資質向上を着実にを行いながら、他職種との連携を密にし安心して暮らせる町づくりに事業所として貢献する。		
項目	内容	具体的方策	評価、反省
年度基本方針	1 「職員の資質向上と安定した事業所の運営」	各種研修会への参加、地域包括支援センター開催の事例研究会への参加	コロナウイルス流行、研修会参加は控えざる終えなくなった。Web研修開催が多くなり職員の資質向上の機会として参加、包括事例研究会も1度参加した。移動時間無く時間的には有意義だった。
		事業所内勉強会の開催と事業所内のケアプラン点検	月間ケアマネジャーの特集ページは毎月1回読み合わせそれぞれの意見を確認、話し合う機会を持った。ケアプランは回覧し自分のプラン作成に役立てた。
		担当人数30名以上を目標に業務を行う。	終了者も多く担当人数をプラスにするのに困難な時期もあったがそれぞれの業務を調整しあい新規依頼を受け目標人数に近づける努力をした。
	2 「新人職員育成」	事業所各職員が職員育成に取り組み姿勢をもち人材を育てる。	残念ながら新人職員の入職は得られなかった。
		指導者側のスキルアップ、研修会参加	管理者のweb研修開催があったので申し込み受講し学ぶ機会を持った。新規依頼者は管理者同行しご本人、家の状況を把握、適切な助言ができるよう努めた。
		いつでも相談できる職場環境、雰囲気作り	事業所内でお互いの立場を理解し合い声を掛け合い一人に負担とならないよう思いやりのある行動、言動を各人が行った。
	3 「地域包括システム構築に向け率先し行動する」	地域包括支援センター、医療機関、地域の他居宅と話し合いの場を持ち地域の課題について話し合う。	コロナ禍の中、直接会う機会は少ないが民生委員会の参加を定例化させたり来年度の学ぶ内容を決めたりと包括を中心に横の繋がりが関係作りは継続させている。
		地域課題改善のための具体的な取り組みを前進させる。	事業所の担当者について1事例地域ケア会議を行った。包括支援センターとはいつでも相談できる関係を作っている。
		他職種、地域の方との連携を充実させるため研修会、MCS活用集会へ参加し顔の見える関係を作る。	web他職種研修会があったが夕方からで全員参加は困難だった。MCS(メデイカルソーシャルネットワークサービス)を活用し医療介護との連携密にとれた。
	4 虐待防止の強化	虐待が起きないように常日頃から本人家族との信頼関係の構築に努める。	ケアマネジャーとしてご利用者、ご家族双方の立場を理解し中立の対応での対応を行うように心がけた。
		早期発見に対処できるようにサービス事業所や地域包括支援センターと日頃から連携を密にする。	虐待の心配のあるご家庭については情報が得られた時点で居宅内で相談。すぐにサービス事業所包括にも相談を行し早めの対応未然に防げるように連携を図った。
		虐待防止に関する研修会に参加する。	虐待に関する研修会としての参加は今年度は行うことができなかった。
	5 新型コロナウイルス感染防止対策と今後の事業所運営	職員個々が感染を防止を心がけ行動する。	基本的な感染防止対策を徹底し事業所内消毒訪問、会議時の注意事項に注意し行動した。
		マニュアル、業務継続計画の作成	マニュアルは作成した。今後見直しが必要。業務継続計画の作成についてはまだ取り組めていない。
	事故報告	苦情申立	件数
		0件	0件
	数値目標	実績	来年度へ向けての方策
目標と実績	利用実績平均90人を維持する。	介護：984件 前年比 100.7% 予防：50件 合計：1034件 " 104.3% 月平均 86.1人	・職員それぞれが力をつけ担当人数も目標人数に近づけ平均し担当できるようになり、利用目標の数字に現実的に近づけることができるようになった。人に教えることで自分達の学びもあると考え今年度こそは新人職員に入職してもらい後継者を育てながら地域のニーズに応えていきたい。

令和2年度 施設別 年間事業報告

施設名 (雲洞デイサービスセンターつばき園・雲洞グループホームつばき園)

基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにはかたがたにしか担えないこと、私たちが挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります			
理念	「その人らしさを尊重します」			
	「笑顔で誠実な対応をします」			
	「地域との繋がりを大切にします」			
項目	内容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	「認知症に対する取り組み」	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の「現在」に着目し、利用者の意思を尊重し、本人がサービスの選択、決定、参画が出来るように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ごとに担当者を設け、介護計画の実施状況や生活全般に関する支援等、担当者が責任を持ってきめの細かいケアが提供できるようになってきていると感じる。
			<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解を地域に広めるために、認知症サポーター養成講座の開催や講座への講師派遣を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防の影響で地域や中学校で実施していた認知症サポーター養成講座が休止となり、実施することが出来なかった。令和3年度は感染状況を鑑みながら市と調整し、実施していきたい。
	2	「職員の資質向上と人材育成」	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスを活かして自身の将来像を明確にし、誇りや自信を持って働ける職場環境を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスを実施し、資格取得や今後のキャリア、勤務環境等について面接が出来たが、スモールステップの作成が出来なかった。
			<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検、自己評価から抽出された課題を計画的に改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検の課題から各種記録の効率化、身体拘束、虐待防止の仕組みについて話し合い、改善策を実施している。
	3	「雰囲気の良い施設作り」	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術だけでなく、対人援助の基本となる接遇面においても、プロを目指し、つばき園に出入りする誰もが心地よいと感じる環境を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの対応については、厚生労働省、県、市からの情報を常に確認し、指示に従い対応を行った。 ・手洗い、マスク着用の基本行動の徹底と職員の出勤前検温の実施、早期受診、行動自粛等を行い、施設にウイルスを持ち込まないように努めた。 ・外部の方と接する機会が少ない年度であったが、施設の透明性を意識するとともに、不適切ケアやチームケアについての啓発を行った。
	4	「虐待防止の強化」	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束、虐待、不適切ケアに対する組織的な取り組み方法を確立し、それらの発生防止、予防に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束、虐待を組織的に改善していく仕組みを具体的に、発生防止、予防に努めている。特に職員のメンタルヘルスに着目し、定期的なストレスチェックを実施するようにしている。
5	「運営改善と柔軟な職員配置」	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に定められた必要配置人員の確保を計画的に行なう。 ・思いやり、絆を意識した施設内の連携を図り、無駄のない人員配置を行なう。 ・経費の節減に取り組む。 ・施設の特徴をアピールし、デイサービス利用者の増員、グループホーム入居待機者の確保を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画よりやや遅れて満床になったが、令和2年度は特養などへの入所、入院による空き床期間が長くなってしまい、実績の減少に繋がってしまった。 ・個々の人件費に配慮した人員配置を実施することが出来なかった。令和3年度は基本的な人員配置を見直し、経費の削減に努めたい。 ・昨年度と同様に特養等の回転率が早いので、各関連機関と連携を密に行い、入居希望者を常時確保できるように努めたい。 	
6	「地域、利用者家族との交流機会を増やす」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、利用者家族の園内行事への参加呼びかけや、地域の草刈りや祭礼などの行事に参加するなど、施設外の方と交流できる機会を積極的に作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加を計画していたが、ほぼ中止となってしまい、交流機会を増やすことが出来なかった。今後も面会等の緩和が出来なかった場合に備えて、インターネットを活用したオンラインでの交流を積極的に実施していきたい。 	
目標と成果	数値目標		実績	来年度へ向けての方策
	デイサービス 年間延べ利用者数 927人	R1年度：1062人 月平均：89人 R2年度：804人 月平均：67人	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情やグループホーム共用型としてのメリット、デメリットを確認し、デイサービスの継続について検討していく。 	
グループホーム 年間延べ利用者数 6242人 (365日×18人×95%)	R1年度：4484人 月平均：374人 R2年度：6148人 月平均：512人	<ul style="list-style-type: none"> ・待機者を一定数確保しておくために、居宅介護支援事業所や医療機関との連携を密に行っていく。 		
	件数	内容	対策	
事故報告	0件	事故報告なし		
苦情申立	0件	苦情申立なし		